

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

異世界転生魔族の日常



アーカイブ

AI実験本3

魔族リーニエの  
死から数分後。

ここ…ここ…  
なんで私生きてるの…？  
あの人間に  
一刀両断されたはず…

見たこともない建物…  
奇妙な服を着た人間…  
というか私なんて裸なんだ…  
だめだ…頭が混乱して  
考えがまとまらない…

とりあえず魔力で服を  
生成しようとしたけど  
上手くいかない…




そうこうしているうち  
人間たちに取り囲まれ…

「マジか痴女かよ！」  
「見た感じ未成年じゃね？」  
「保護してやろうぜ！」

奴らに腕を掴まれ引っ張られた  
『ウザいな…始末するか』

けど服と同じく  
武器も生み出せなかった  
それどころか掴まれた腕を  
振り払うことすら出来ない…



「このツノは何？ コスプレ？」  
「服着てないのにコスプレってw」

人間たちが笑いながら服を脱ぎ  
拘束した私の身体をまさぐる…


屈辱だ…  
首切り役人まで務めたこの私が  
こんなやつらに何もできないなんて…

力が出せない私は  
人間に陵辱され続けた  
何人もの男が膣内に出していった

「オイ暴れんなよ！  
ちよつとそつち抑えてて！」  
「OK」

「裸で街中歩く変態女！  
これが欲しかったんだろ？  
オラっ！」

悔しい…  
模倣する魔法さえ使えれば  
こんな人間なんか  
即皆殺しにできるのに…



散々犯された私は  
路地裏に放置された  
なんで…なんでこんなことに…

その後は放心状態のまま  
当所もなく街を彷徨った…  
精液まみれの私に  
声をかける人間は誰もいなかった


もう何時間歩いたか：  
疲れ果て民家の軒先に座り込む：  
体の汚れは雨で洗い流されていた

冷たい：私このまま死ぬのかな：  
さっき死んだばかりなのに  
また死ぬのか：

また犯されるかも  
しれないと思ったけど  
このまま凍え死ぬよりは  
マシと考え家主の後に続いた

「君：どうしたの？」  
目の前にいた人間が声をかけてきた  
「寒いだろ 中に入りなよ」  
…どうやらこの家の主らしい



A pink-haired girl with small horns is sitting in a bathtub. She has blue eyes and is looking towards the viewer. The scene is set in a bathroom with a sink and faucet visible in the background.

「とりあえずお風呂に入って温まってよ」  
こんな格好の私に何一つ疑問を持たず  
風呂を勧める人間…ここではよくあることなのか？

そっいえばこの人間たちの言葉は  
今まで聞いたことがないものだったけど  
どういう訳かその内容を理解できてる…  
何故…意味が分からない…

風呂場には  
回すとお湯が出てくる魔道具があった  
いや…これ魔力を感じない  
こんなものが存在するなんて…



風呂を出て家主に渡された服を着た  
「ゴメン女性用の服なくて…今日はそれで我慢して  
明日ちゃんとした服を買いに行こう」

「君異世界から来たんだよね？  
最近世界中で年に何度か別の世界から  
来たっていう人が見つかったって  
ニュースになってるけど」  
異世界？…そうか…そういうことか…

「服を揃えたら役所に申請登録に行こう  
仮の戸籍や補助金が貰えるから  
君はこの国では確か  
3人目の異世界人になるかな」  
3人目…  
…私の他にも2人いるんだ…



「お腹空いてない？ さっき買ってきたピザがあるんだけど食べる？」

家主に促されるまま出された食物を口にしたら

「おいしい…」

異世界の言葉が自然と口から洩れた

そして頬を伝わる涙……え……なにこれ……

この本はAI絵に手描き修正とクリスタによる台詞・効果を加えて制作された実験的な同人誌です

今まで感じたことのないこの感情……魔力を使えない身体……  
その時は確信した  
姿かたちは魔族のままだけど  
私はまったく別の生物に……  
多分この世界の『人間』になってしまったんだと……